

ひょうえのさかんだのごへんじ
兵衛志殿御返事

さんしょうしまのごこと
(三障四魔事)

御書全集 1091号 15行目〜16行目
編年体御書 811号 11行目〜12行目

潮 しをのひると・みつと月の出づると・いると・

夏と秋と冬と春とのさかひには必ず相違する

事あり凡夫の仏になる又かくのごとし、必ず三

障四魔と申す障いできたれば賢者はよろこび

愚者は退くこれなり

語句

凡夫

普通の人間。煩惱・業・苦に束縛され、迷いの世界で生死を繰り返す者。

三障四魔

信心修行を妨げる三種の障り・妨げ（煩惱障、業障、報障）と、信心修行者の生命の輝きを奪う四種の働き（陰魔、煩惱魔、死魔、天子魔）のこと。

通解

潮が引く時と満ちる時、月の出る時と入る時、また夏と秋と冬と春との季節の境目には、必ずそれまでとは相違するところがある。

凡夫が仏になる時も、また同じである。必ず三障四魔という妨げが出てくるが、その時、賢者は喜び、愚者は退くのである。